

授業概要

子どもの教育や保育にとって重要な子どもの発達理解、そこで生じる問題について理解し、問題への援助について理解し、洞察を深めることがこの授業の目的です。

問題が生じている際の子どもの内面について、理解したり感じることができるよう方法や具体的援助の方法を探っていきます。また、子どもの発達理解のためには、親理解や自分理解も深めることが必要です。そのために発達臨床的観点からの理論や方法も学んでいきます。

授業計画

| | |
|------|----------------------------|
| 第1回 | 子どもの発達とそれを取り巻く問題の理解とその方法 |
| 第2回 | 子どもの内面や行動の理解：子どもの観察と情報収集 |
| 第3回 | 幼児の生活と発達の問題（1）事例の提示と考察 |
| 第4回 | 幼児の生活と発達の問題（2）問題解決への取り組み |
| 第5回 | 児童の生活と発達の問題（1）事例の提示と考察 |
| 第6回 | 児童の生活と発達の問題（2）問題解決への取り組み |
| 第7回 | 発達段階ごとのつまずきとストレスの理解 |
| 第8回 | 発達の遅れと発達の障害 発達の遅れと発達の障害 |
| 第9回 | 子どもの発達のなつまずきやストレスへ教育的介入の方法 |
| 第10回 | 子どもの学校への適応とその支援 |
| 第11回 | 親の子育てへの悩みや不安の理解 |
| 第12回 | 親支援の実際と家族療法の基本 |
| 第13回 | 発達臨床の現場（1）幼少期の問題 |
| 第14回 | 発達臨床の現場（2）小学校時期の問題 |
| 第15回 | 発達支援のロールプレイ |
| 第16回 | 総まとめ（定期試験） |

到達目標

- ・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する。
 - ・ 幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。
- ※現実の問題に対する知識や考察を深め、実践や実習に活かせる専門性を身に付けてほしいと思います。

履修上の注意

- ・ 原則20分以上の遅刻は欠席、遅刻は3回で1回の欠席とします。4回以上の欠席は、成績評価の対象外とします。
- ・ 小課題やディスカッション課題などを適宜行います。
- ・ 注意事項について初回の授業時に伝えるため、初回授業には必ず出席してください。

予習復習

復習を中心にしてください。授業の復習を身に着けるように心がけてほしいです。

評価方法

授業態度・参加度（20%）、小レポートやペーパー提出（30%）、定期試験（50%）、これらを踏まえての総合評価

テキスト

毎回プリント資料を配布します。必要に応じて参考図書も紹介します。
 【全体を通しての参考図書】 学習指導要領